

保育者養成課程における音楽制作 I

— 作詞を通した子ども観に焦点をあてて —

Music production in Nursery Teacher Training Course I

— Focusing on the students' views on children revealed through lyric-writing —

磯部 澄葉

Sumiha ISOBE

1. はじめに

幼稚園や保育園などの保育現場で保育者に必要な能力として「ピアノ技術」「応用力」「立案力」「文章力・言語能力」が上位を占めていることが先行研究（林・森本・東村, 2012; 林・森本, 2014）の調査で明らかになっている。保育者養成課程では、学生が卒業時までにこれらの能力を身に付けることができる指導を行う必要がある。幼稚園・保育園では共通して「文章力・言語能力」が重視されている。連絡帳や園便りなどによる保護者とのやり取りや、子ども達が理解できるように子どもの視点で物事を考えて伝える力が必須となるからである。先行研究に、作詞は自分の伝えたいことを表現するのに役立つ創造的な活動（Riley, 2012）であり、作詞する過程での思索は文章読解力の向上にもつながる（久原, 2017）という記述がある。

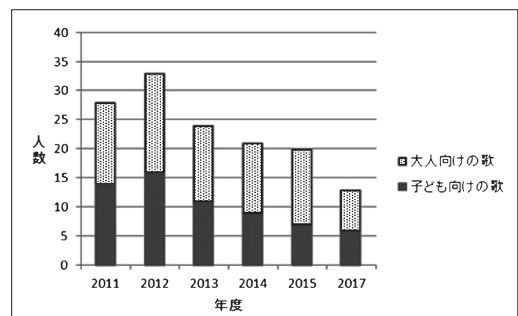
本研究では「文章力・言語能力」に着目し、音楽制作（作詞・作曲）の取り組みが「文章力・言語能力」の育成に役立つかを調査するとともに、学生の作詞に焦点をあてて歌詞から読み取れる学生の「子ども観」を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

(1) 調査対象

筆者の勤務する4年制大学の保育者養成課程にて音楽制作に取り組む「演習」を2年次に履修していた学生142名（過去6年度分ⁱのうち、「子ども向けの歌ⁱⁱ」を制作した学生63名を調査対象とし、蓄積データを用いて分析を行った。63名の内訳は2011年度14名、2012年度16名、2013年度11名、2014年度9名、2015年度7名、2017年度6名である（Figure1参照）。尚、本論文の音楽制作とは「作詞・作曲」を示す。

Figure1



(2) 調査手法

アンケート調査を実施し作詞において工夫

ⁱ 2016年度は担当していないため省いている。

ⁱⁱ 本論文では「子ども向けの歌」以外の曲を、「大人向けの歌」とまとめて示している。

した点や苦勞した点について記述してもらった。また、最終授業日に制作した曲の楽譜提出を課しているため、楽譜による歌詞分析を行った。

(3) 調査期間

2011年7月28日～2017年7月26日に実施した。

(4) 音楽制作に取り組む「演習」の授業計画

<第1回>

・オリエンテーション ・リズム遊び

<第2回～第4回>

・わらべうた ・リサイクル楽器の制作
・曲（アーティスト）の歌詞分析
・保育所実習に向けての説明

<第5回～第10回>

・歌詞分析の発表（中間試験）
・基礎的な楽譜の書き方の説明 ・聴音
・コードネームや基本的なコード進行の説明
・メロディー制作 ・歌詞制作
・伴奏付け

<第11回～第14回>

・音楽制作の完成 ・タイトル付け
・楽譜作成

<第15回> ※「アンケート調査」実施

・最終試験（自作の曲を弾き歌い形式にて発表）
・楽譜提出

各年度の最終授業日（15回目）にてアンケート調査を行った。音楽制作は受講者の各レベルに応じて指導を行っている。

(5) 倫理的配慮

アンケート調査および歌詞分析を実施するにあたり、個人情報保護に関する内容を踏まえて説明を行う等、金城学院大学論集規定に基づき調査を行った。

3. 「歌い継がれてきた子どもの歌」および「近年の子どもの歌」の特徴

学生が制作した「子ども向けの歌」について調査する上で、日本における子どもの歌の特徴を把握しておかなければならない。先行研究（諸富, 2011）の調査によると、季節行事に関する歌など長い間「歌い継がれてきた子どもの歌」の特徴は、日本語の高低の抑揚に即して自然なアクセントで書かれており、ひとつの音符に一音節しかついていないことから全体的にゆったりとしたテンポの曲が多いと分析している。一方、「近年の子どもの歌」の特徴としては、曲のテンポが速いものが多く、曲の途中で転調する曲も見られるようになってきている。また、歌詞の言葉数も増え、メッセージ性や物語性の強い歌が好まれる傾向にあると述べている。そして「子どもの歌」の共通な特徴として「オノマトペⁱⁱⁱ」が多用されていることを挙げている。学生が制作した「子ども向けの歌」の歌詞や曲調にも上記と同様な特徴がみられるかどうかも含め分析を行う。

4. 歌詞および曲調の年度別調査結果

(1) 歌詞内容の分析結果

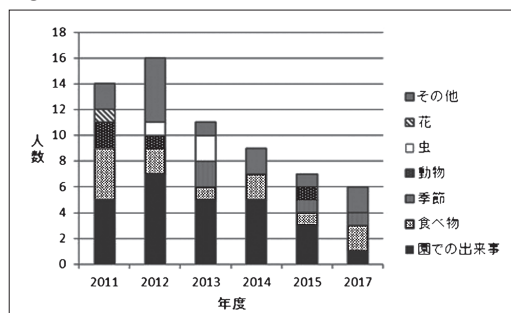
「子ども向けの歌」を制作した学生63名（63曲）の歌詞内容について、『園での出来事』『食べ物』『季節』『動物』『虫』『花』『その他』の7項目に分類することができた（Figure2 参照）。以下、各項目に該当する曲のタイトル名を記述する。

例年、『園での出来事』や『食べ物』に関する歌詞が多い傾向にあり、過半数を占めている。『園での出来事』では「どろんこあそび」「おさんぽ」「ステキなあいさつ」「ご・は・んっ!!」「宇宙船ドーム」などの曲が該当し、

ⁱⁱⁱ 擬音語・擬声語・擬態語などを表す言葉。

『食べ物』では「マメマメ・コロコロ!!」「キャンディーのうた」「シュークリーム」「オムライス」のうた」などの曲が該当した。その次に「うさぎさん」「くろいひつじ」など『動物』に関する内容や「くいしんぼうなありさん」「ちいさいあおむし」「せみの休日」といった『虫』, 「すずらん」の『花』をテーマにした歌詞など、生き物に関する内容が多くみられた。また「七夕物語」「あめのひ」「まだかななつやすみ」など『季節』を表す歌詞は2013年度頃から見られるようになった。その他、上記に当てはまらない曲を『その他』の項目に分類し、「わんぱくマーチ」「いろいろなおと」「ハミガキのうた」「あたらしくつ」など子どもが好きなことやモノ、生活習慣のテーマを含む曲が該当曲となった。

Figure2

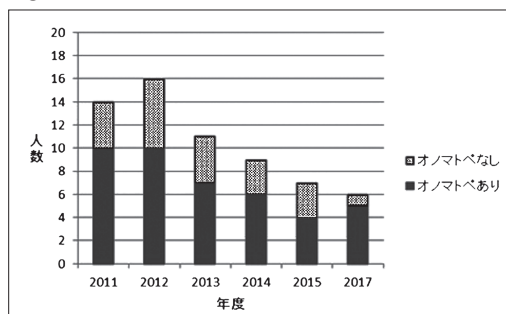


(2) オノマトペの使用割合

「ふわふわ」「ピカピカ」「モリモリ」「ホックホック」などオノマトペの使用人数を年度毎に示した (Figure3 参照)。その結果、毎年半数以上がオノマトペを使用して作詞を行っていた。オノマトペは曲の雰囲気をもっと印象づけるのに役立ち、記憶にも残りやすくなるため、子ども達の覚えも早くなる。実際に保育現場で子ども達はオノマトペの発音を楽しみ、時に体で表現も加えながら歌っている。子ども向けの歌にオノマトペを使用する利点として、制作側と歌う側の双方が表現を楽し

みながら行えることにある。

Figure3



(3) 掛け声および早口な歌詞が含まれる曲の傾向

「さあ」「おお」「いちにのさんしで」など掛け声を含む歌詞も少数ではあるが毎年みられる。過去6年度分の蓄積データの調査では年度による偏りはなく、毎年1~2名ずつ該当していた。掛け声の歌詞を含む曲の傾向としては「散歩」や「運動会」など動きをテーマにした曲に多くみられ、動作を誘導する時の掛け声として使用されていた。一方、早口でうたう歌詞を含む曲は近年急にみられるようになった。蓄積データでは、初期の2013年度までは該当者は0名であり、2014年度以降に毎年1~2名ずつ該当している。該当曲の歌詞の傾向としては、友達との遊びの内容や保育園での出来事が具体的に書かれていた。曲調がリズムカルでアップテンポのものがほとんどであり、リズムを細かく刻むことで歌詞の文字数を多くすることを可能にしている。その結果として早口な歌詞の曲が生まれやすくなっている。また近年の「言いたいこと・伝えたいこと」を気軽にすぐ発信できるSNSの普及が、文字数の増加に影響を与えている可能性もあると考えられる。

(4) 調性の傾向および転調の有無

過去6年度分の蓄積データより、学生の制

作した「子ども向けの歌」の調性は全てDur（長調）の曲であることがわかった。例年、C-Dur（ハ長調）、F-Dur（ヘ長調）、G-Dur（ト長調）、D-Dur（二長調）、A-Dur（イ長調）のいずれかの調性で作られており、C-Durの曲を制作する学生が一番多く、次にF-Durの曲が多い。G-Dur、D-Dur、A-Durの曲は少人数（0～2名）が該当している。この割合は、学生たちが弾き歌いの授業にて使用しているテキスト「心を育むこどもの歌（2005、教育芸術社）」に掲載されている曲の調性の割合と同様で、普段歌っている子ども向けの歌に影響を受けていると考えられる。

また2014年度以降より転調する曲を制作する学生が増えており、2011年度7%、2012年度0%、2013年度0%に対し、2014年度11%、2015年度29%、2017年度50%と急増している。転調する曲の傾向としては、中間部分の歌詞に「ケンカをしても」「かなしくても」などネガティブな語彙を用いると共に、その部分の曲調をDur（長調）からmoll（短調）に転調し、曲の終盤で再びDurに戻る形式が多くみられ、曲中に明るさと暗さのコントラストをつけていた。

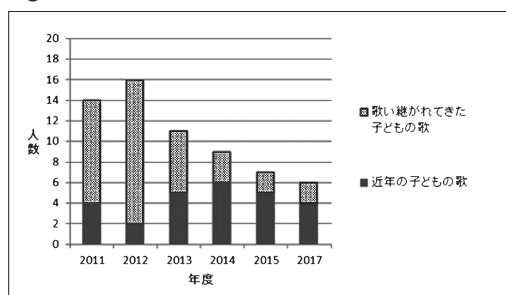
(5) リズム

「子ども向けの歌」63曲を、上記の諸富（2011）が述べた「歌い継がれてきた子どもの歌」又は「近年の子どもの歌」の各特徴に該当する方へ分類した。その結果、「近年の子どもの歌」の特徴であるリズムカルでアップテンポな曲を制作した学生数は2014年度以降過半数を超えていることが明らかになった（Figure4 参照）。

また、旋律にリズムカルさを促す音符に「付点音符」「三連符」がある。保育現場にてよく歌われている「おはようのうた」「おかえりのうた」「おべんとう」（小澤，2009）な

どの曲は保育者養成課程の授業でも課題曲として取り上げられることが多く、付点八分音符と十六分音符が組み合わさった「タッカ」のリズムで「付点音符」が用いられている。学生の曲の多くにも「タッカ」のリズムが多用されていた。一方、「三連符」も「おばけなんてないさ」「世界中の子どもたちが」など子ども向けの人気曲によく登場する音符であり、使用することで躍動感が増すため、「付点音符」の次に多く使用されていた。

Figure4



(1)～(5)の調査結果より、歌詞内容の傾向やオノマトペおよび掛け声を含む歌詞の曲数は年度に関係なく共通していること。そして、早口で歌う歌詞や転調する曲、リズムカルな音符を含む曲の割合においては年々増加傾向にあることが明らかになった。これらは、先行研究（諸富，2011）の分析結果とも一致している。

5. アンケート調査結果

アンケート調査は、作詞に関して工夫した点や苦勞した点について自由記述形式で行った。まず、工夫した点についての自由記述を以下にいくつか紹介する（Table1 参照）。

最も多かった内容は、保育実習^{iv}での実践を通して実際に関わった子どもたちの様子を出しながら具体的な内容の歌詞になるよ

^{iv} 本校の保育実習は2年次の6月と10月に計4週間（各2週間ずつ）実施している。

う心掛けて作詞したという記述であった (Table1より, F1・F2・F3・F4・F5参照)。次に自分の好きなことやモノなどをテーマにした内容が多く、それら自体の気持ちを歌詞で表現したという記述であった (Table1より, F6・F7・F8参照)。またオノマトペを取り入れることを重要視したという記述も多くみられた (Table1より, F9・F10参照)。その他, F11のように苦手なことやモノを克服へと繋げるような歌詞の工夫や, F12のような歌詞の語彙に関する工夫も挙げられていた。

次に苦勞した点についての自由記述をいくつか以下に紹介する (Table2参照)。

作詞を行う上で苦勞をした意見として最も多かった記述は、作曲したメロディーと自分

の思い描いた歌詞とを融合する際の難しさに関してであった。8割の学生が同じような意見を述べていた (Table2より, F1～F4参照)。本演習授業では、音楽制作の手順に決まりを設けていない。そのため、歌詞から作成する学生もいれば、メロディーやコード進行から音楽制作をしていく学生もいる。しかし実際多くの学生はメロディーから作っていくことが多く、気に入ったメロディーを作り終えた後に作詞活動に移るケースが多いため、自分の伝えたい言葉や想いを後付けで加えていく作業になる。その結果として、メロディーのイメージを崩さないように微調整しながらの歌詞作りは難しくなり、思い通りに作成できなくなるという問題が生じるのである。その一方で、ポジティブな意見も挙げられていた。

Table1

F1	実際に実習でどろんこ遊びをした時のことを思い出しながら書きました。歌の流れを考えて、ストーリーっぽくなるようにしました。 タイトル:「どろんこあそび」
F2	子供向けにしたかったので、小さい子でもすぐに覚えられて歌いやすいように同じ言葉を繰り返し使いました。あくしゅでばいばいギューは実際に保育園でしている所も多いと思ったので入れました。 タイトル:「さよなら」
F3	子どもたちが外で楽しくあそんでいるのをイメージして書きました。 タイトル:「ともだち」
F4	子どもが日常生活でこの歌を歌ってくれるように、そして挨拶のできる子に育つように「あいさつ」をテーマにしました。 タイトル:「ステキなあいさつ」
F5	今回保育実習に行ってきたので子ども向けの歌を作ろうと考えました。子どもたちが友達を大切に、1日1日ちがうことが起きて楽しいということを感じてほしいと思い作りました。 タイトル:「たいせつな今日」
F6	いつもセミ狩りをする立場なので、セミの気持ちが少しでも伝わるように考えました。 タイトル:「せみの休日」
F7	「ありさんのおはなし」がすきなので動物に関する歌にした。子どもも歌いやすいような歌詞になるよう工夫した。 「くいしんぼうなありさん」
F8	アイスクリームはみんな大好きだと思うので楽しく歌えるように作りました。 タイトル:「アイスクリーム」
F9	自分も子どもたちも歌いやすいように工夫しました。ゴシゴシなどの効果音などを入れて楽しく歌えるようにしました。 タイトル:「ハミガキのうた」
F10	子ども達に分かりやすく、覚えやすいものにした。また、「きゅっ きゅっ きゅっ」「とんとんとん」などを入れることで楽しめる歌詞にした。 タイトル:「宇宙船ドーム」
F11	誰もが経験する野菜がきらいなときの気持ち、また食べられた時の嬉しさを歌詞にしました。 タイトル:「お野菜食べれたZE」
F12	幼児向けに作ったので動物を登場させたり、「たいよう」を「おひさま」など子どもが親しみやすい言葉に変えてみました。 タイトル:「うさぎさん」

F5～F7の学生のように大きなテーマを最初に決め、文章ではなく伝えたい言葉を単語や箇条書きでたくさん候補にあげてから連想ゲームのように語彙をどんどん変換させてメロディーと合うものを選んでいく方法である。そうすることで融合する際の苦労が緩和され、スムーズに作詞を行うことが可能になる。想いを歌詞にのせて伝える作詞の取り組みは、冒頭で述べた「文章力・言語能力」の育成にも繋がると考えられる。

Table2

F1	単語はいろいろと出てくるのですが、曲に結びつけるのと、前後の歌詞との繋がりが難しかったです。
F2	思いついた言葉が曲のメロディーと合わず、メロディーに合わせて歌詞をつけるのが大変でした。
F3	Aメロ、Bメロ、サビへの流れに気をつけて歌詞を考えることに苦勞しました。
F4	曲を作ってから作詞をしたので、字余りや字足らずになってしまい、良い言葉を見つけるのに苦勞しました。
F5	テーマを決めて作詞をしたので、あまり苦勞はしなかったです。
F6	歌詞はわりと連想ゲームのようにして書いていったので苦勞しませんでした。
F7	初めはどんな曲にしようかイメージが全く思いつかなくて苦勞しましたが、先生から「いま思っている事・感じていること・気になっていることを素直に書き出してみるといいよ」とアドバイスをもらって書きやすくなりました。

6. 歌詞分析から読み取れる「子ども観」

宮原・田和辻・松居（2017）の校歌の歌詞に関する研究に、校歌は「我ら」「母校」「学び舎」「育む」「集う」など集団的である語彙や「輝く」「希望」「高い」「向かう」などポジティブな歌詞で構成されており、それはいわゆる「校歌らしさ」を表しているという興味深い内容が述べられている。では、「子どもらしさ」を表す言葉には何があるだろうか。「プラス・マイナス」のイメージを表す形容詞の対で子どもに対するイメージの特徴を示

した先行研究（矢野・佐野・宮崎・池田・杉本・我部, 2003; 岡田, 2006; 岡田・中新・谷原, 2006; 星野・日瀉・吉田, 2008; 湯地, 2012）より歌詞に使用されやすい7対の形容詞「①かわいらしい—②にくたらしい」「③愉快的な—④不愉快的な」「⑤きちんとした—⑥だらしない」「⑦好奇心の強い—⑧好奇心の弱い」「⑨元気な—⑩疲れた」「⑪明るい—⑫暗い」「⑬素直な—⑭強情な」を分類する項目として取り上げ、学生の作詞の語彙を通して学生が子どもたちにどのようなイメージを持っているのかを調査した。

「子ども向けの歌」全63曲（63名）の歌詞分析を行った結果、多く使用されていた用語順に「おともだち（9名）」「笑顔（7名）」「おはよう（7名）」「きらきら（6名）」「たいよう（6名）」「せんせい（6名）」「わらう（5名）」「にじいろ（5名）」「おひさま（5名）」「みんなで（5名）」「おほしさま（5名）」「げんきに（4名）」「たのしい（4名）」「なかよく（4名）」「おべんとう（4名）」「おさんぽ（3名）」「おそと（3名）」「びかびか（3名）」「けんか（3名）」「ふわふわ（3名）」「さみしい（3名）」「なかなおり（3名）」「たんけん（3名）」「あいさつ（3名）」がみられた。それらの語彙を上記14項目（①～⑭）の中で1番近いイメージの項目に分類した。該当しない用語は「その他」とした（Table3 参照）⁵。

Table3

①かわいらしい	「笑顔」「ふわふわ」
③愉快的な	「わらう」「たのしい」
⑤きちんとした	「おはよう」「あいさつ」
⑦好奇心の強い	「たんけん」
⑨元気な	「げんきに」「おさんぽ」「おそと」
⑪明るい	「きらきら」「たいよう」「にじいろ」「おひさま」「おほしさま」「びかびか」

⁵ 「②不愉快的な」、「④だらしない」、「⑥生意気な」、「⑧好奇心の弱い」、「⑩疲れた」、「⑭強情な」のイメージは該当がなかったため表から除外した。

⑫暗い	「けんか」「さみしい」
⑬素直な	「みんなで」「なかよく」「なかなかおり」
その他	「おともだち」「せんせい」「おべんとう」

Table3の分類表より、「⑫暗い」の項目以外は全てポジティブな項目に分類された。また「⑫暗い」の項目に該当した「けんか」「さみしい」というネガティブな言葉が歌詞に含まれていても、その後には必ず「なかなかおり」や「なかよく」といったポジティブな言葉が添えられていた。「演習」での子ども向けの音楽を制作する学生の多くは Dur (長調) の曲を制作するため、明るい曲調に合わせて言葉を選んでいる可能性もあると考えられるが、ほとんどの学生が自分の子どもの頃の体験や保育実習や親戚など実際に関わった子どもたちの印象を歌詞に反映しているケースが多い。現に保育園に通っていた学生は「ほいくえん」、幼稚園に通っていた学生は「ようちえん」という言葉が歌詞に含まれていたり、実習園や自らの体験から苦手な食べ物として「ピーマン」「人参」「トマト」^{vi}が登場したりと影響を与えている。

歌詞分析の結果より、学生たちの「子ども観」はポジティブなもので形成されており、実習で関わった子ども達の印象や自らの子供時代の思い出が明るいものであったと推測することができる。

7. 学生の作詞例

最後に本研究にて分析した63曲の「子ども向けの歌」の中から、学生が作詞した歌詞を4曲紹介する。

1 「ハミガキのうた」

ハミガキしましょう シュシュシュシュ
 キレイにみがこう シュシュシュ
 まえばも おくばも シュシュシュシュ
 ゴシゴシ シュシュシュ
 ゴシゴシゴシゴシ シュシュシュシュ
 ゴシゴシゴシゴシ シュシュシュシュ
 うえのは したのは シュシュシュシュ
 キレイにみがこう
 しあげは〇〇がシュシュシュシュ
 キレイにしましょう シュシュシュ
 さいごは うがいを ガラガラペ
 ほら ツルツル ピカピカ キラキラ

*〇〇は自由に言葉を入れて歌う

1 曲目の歌詞は「ハミガキ」=「生活習慣」がテーマになっており、子どもが覚えやすい「オノマトペ」が繰り返し多用されているのが特徴である。

2 「お野菜食べれたZE」

①にんじん (②ピーマン, ③トマト) たべよう モリモリ
 いっぱいたべよう パクパク
 にんじん (②ピーマン, ③トマト) たべたら ほくたちは
 おおきくなれるんだ
 でもほんとうは
 にんじん (②ピーマン, ③トマト) ながてなんだ
 きょうのカレー (②チャーハン, ③スープ) はおいしかったな
 「え!?!」にんじん (②ピーマン, ③トマト) はいついたの!?
 にんじん (②ピーマン, ③トマト) たべれた モリモリ
 いっぱいたべれた イェーイ イェーイ!
 にんじん (②ピーマン, ③トマト) たべてみんなでおおきくならう

* 1 番は「にんじん」、2 番は「ピーマン」、3 番は「トマト」が主役になっている

2 曲目は作詞した学生が実際に実習で関わった子どもたちの苦手な食べ物をテーマに

^{vi} 「ピーマン」「人参」「トマト」は子どもの苦手な食べ物ランキング・ベスト10にランクインしていることが多い。

取り上げており，克服へと導く希望（願い）が歌詞に込められている。

3 「うさぎさん」

ちいさなうさぎ ぴよんぴよんぴよん
おでかけしよう
おひさまにっこり わらってる
みんなみんなよんで おさんぽしよう
おともだちといっしょに たのしいね

3曲目は子どもが好きな動物と園児を掛け合わせて表現されており，短い歌詞の中でも「楽しさ」や「明るさ」が伝わってくる歌詞になっている。

4 「宇宙船ドーム」

うちゅうせんだームにいこう
みんなで手をつないで
さあ 1・2・3・4 あるいていこう
ぼうしをかぶって きゅっきゅっきゅっ
くつをはいて とんとんとん
むしよけスプレー シュッシュッシュッ
げんきにいこう

うちゅうせんだームにいこう
みんなで手をつないで
さあ 1・2・3・4 あるいていこう
ありをみつけて きゃっきゃっきゃっ
てんとうむしも みつけたよ
おはなをつけて にっこにこ
たのしくあそぼう

うちゅうせんだームにいこう
みんなで手をつないで
さあ 1・2・3・4 あるいていこう

4曲目の歌詞は学生が実習で経験したお散歩での実際の様子を描いている。タイトルである「宇宙船ドーム」は実習園から近隣の大学内にある宇宙線研究所の屋根がドーム型になっていることから名づけられた実在する場所である。子どもたちは「宇宙船ドーム」という名称がとても気に入っており，実習中に

お散歩で何度も足を運んだ学生にとっても印象深い場所となっている。

8. まとめ

本研究では保育者養成課程にて「子ども向けの歌」の音楽制作に取り組んだ2年次63名の学生を対象に，学生が制作した音楽の曲調や歌詞分析の調査を行ってきた。曲調の分析結果より，早口で歌う歌詞を含む曲・転調する曲・リズムカルな曲が近年増えている傾向にあることが把握できた。また子どもの視点で作詞を行うことで子どもの心の理解や子どもに伝える力を養うことにも繋がることが明らかになった。

そして歌詞分析の結果からはポジティブな内容の「子ども観」がみられた。この結果は将来保育者を志す学生の心理として喜ばしいことである。しかし歌詞にみられる「子ども観」は、「子どもの歌=明るい・楽しい」という概念からネガティブ面を隠して作詞している部分もあると考えられる。実際の保育現場はポジティブなことばかりではなく，子どもが好きなだけではできないことも多々あるからである。林・高橋・高岡・岩本（2016）の「保育者として必要なこと」の近年の調査で，「明るさ・元気さ・笑顔などの保育者の資質や人間性」・「仕事を続ける根気さ」の回答が，「保育者の専門実践能力」という回答を上回っていることを挙げていることから，現実とのギャップが大きいことが想像できる。また東野・松木・大池（2005）や湯地（2012年）は，実習を行うことで「子ども観」は大きく変化していくと述べている。学生は実習を重ねる毎にポジティブな面とネガティブな面の双方を感じていくことになり，その都度「子ども観」も変化していくため，学年によっても「子ども観」は変動すると考えられるからである。近い将来子どもたちと直接

的に接することになる学生たちには、ネガティブな面も受け止めながらポジティブな心で子どもたちと接してもらいたいと願う。なぜなら子どもにとって保育現場は初めての社会の場であり、保育者が子どもたちに与える影響力は大きく、保育者の言動が子どもたちの今後の心の基盤になると言っても過言ではないからである。そのためには学生の真の感情を読み取り、サポートしていく重要性も心に留めておかなければならないと感じられた。

作詞に取り組むことは、語彙力の幅を広げると共に、さまざまな視点から作詞を行うことで保育者に必要な「人へ想いを伝える」という「文章力・言語能力」の育成にも役立つことが明らかになった。今後は学生による音楽制作の『作詞』に加えて『作曲』の取り組みにも視野を広げ、保育者に必要とされる「ピアノ技術」や「音楽能力」育成への影響を調査し、保育者養成課程における音楽制作の可能性についてより追究していきたい。

〔参考文献〕

- 林悠子・森本美佐「保育者養成校に求められる学生の保育実践力と資質について」『奈良文化女子短期大学紀要 第45号』2014年 pp.123-130
- 林悠子・森本美佐・東村知子「保育者養成校に求められる学生の資質について－保育現場へのアンケート調査より－」『奈良文化女子短期大学紀要 第43号』2012年 pp.127-134
- 林悠子・高橋千香子・高岡昌子・岩本健一「保育者養成校に求められる学生の資質について (2)－就職先へのアンケート調査の前回調査との比較から－」『奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要 第47号』2016年 pp.71-80

東野充成・松木美奈子・大池美也子「保育園実習に見る看護学生の子ども観」『九州大学医学部保健学科紀要 第5号』2005年 pp.77-86

星野修一・日潟淳子・吉田圭吾「大学生における子ども観に関する一考察」『神戸大学大学院人間発達研究紀要 第2巻 第1号』2008年 pp.33-42

石田裕子・芝崎良典・山崎晃「保育者の子ども観と教育課程に関する一考察」『幼年教育研究年報 第24巻』2002年 pp.103-109

石川正子「保育学生がもつ子ども観」『盛岡大学短期大学部紀要 第25巻』2015年 pp.1-7

磯部澄葉「保育者養成課程におけるピアノ初心者へのレッスン支援－コードネーム・リズムピックを用いた指導法の提案－」『金城学院大学論集 人文科学編 第10巻第2号』2014年 pp.19-31

久原泰雄「ツイッターを使用したつぶやき作詞法の開発」『東京工芸大学芸術学部紀要 Vol.23』2017年 pp.35-44

南曜子・今村方子・今川恭子「心を育む子どもの歌－幼稚園/保育園/小学校/幼稚園教諭・保育士 / 小学校教諭養成課程－」2005年第1刷発行、2006年第2刷発行 (株) 教育芸術社

宮原佐智子・田和辻可昌・松居辰則「校歌の歌詞から感じる「なつかしさ」の生起モデルの構築」『日本感性工学会論文誌 Vol.16 No.1』2017年 pp.109-119

諸富満希子「「子どものうたの変化」に関する一考察－戦後子どものうたはどのように変化したか－」『日本女子体育大学紀要 第41巻』2011年 pp.49-56

岡田恵子「医療保育科学生の保育所実習前後の子どもイメージ、心理社会的発達の変化とこれらの関連性」『川崎医療福祉学会誌 Vol.16 No.2』2006年 pp.377-384

岡田恵子・中新美保子・谷原政江「医療保育科学
生と看護科学生における入学時の子どもイメ
ージの比較」『川崎医療福祉学会誌 Vol.16 No.1』
2006年pp.179-183

大滝まり子「教育大生の保育者観,子ども観」『北
海道文教大学研究紀要 第28号』2004年 pp.105-
114

小澤和恵「保育所・幼稚園実習で求められる音楽
活動の考察－「生活の歌」と「季節の歌」につ
いて－」『埼玉純真短期大学研究論文集 第2号』
2009年pp.37-46

Riley, P. E. 「Exploration of student development
through songwriting.」『Visions of Research in
Music Education, 22』2012年 pp.1-21

菅眞佐子「子ども観の形成に関する研究－専門教
育を受けることで子どもイメージはどう変化す
るか－」『滋賀大学教育学部紀要 教育科学
No.52』2002年 pp.85-94

竹田好美「短大生のもつ子ども観－保育原理の授
業を通して－」『富山福祉短期大学「共創福祉」
第4巻 第1号』2009年 pp.55-63

矢野恵子・佐野和香・宮崎つた子・池田浩子・杉
本陽子・我部山キヨ子「育児中の父親・母親の
「子ども」イメージ－1歳6ヵ月児の父母と大学
生の父母の世代間比較－」『小児保健研究 Vol.62
No.6』2003年 pp.657-666

湯地宏樹「保育学生の子ども観・保育観と幼稚園
教育実習との関係」『日本ペスタロッチ・フ
レーベル学会 第9回課題研究委員会発表資料』
2012年

[online] [http://www.naruto-u.ac.jp/facultystaff/hyuji/
jsspf/kadai/yuji3.pdf](http://www.naruto-u.ac.jp/facultystaff/hyuji/jsspf/kadai/yuji3.pdf)